



徳嶺勝信

4月のベトナム南部ホーチミンは乾期の終盤になり気候的には一年で最も暑い時期を迎える。日中の日差しは厳しく、気温も40度を超える日が何日もある。

2015年のベトナム経済は輸出の増加、内需の拡大で好調な年になった。国内総生産（GDP）成長率は6・68%で、政府目標値の6・2%を大きく上回り、過去5年の最高を記録した。

昨年10月に環太平洋連携協定（TPP）も大筋合意に達した。TPP発効により、ベトナムは参加12カ国の中で最も大きな恩恵を受ける国として期待されている。昨年12月には東南アジア諸国連合（ASEAN）経済共同体の発足もあり、ベトナムは世界とASEANを結ぶ重要な役割を担う。

16年の経済成長率目標は6・8%から7%に上方修正された。ASEAN経済共同体の発足、TPPが実質スタートする18年に向け経済も本格的に動きだした。ホーチミン市内は活気にあふれ、市内の至る所で開発が進み大型の開発

急成長 沖縄の人材活躍

ベトナム

工事ラッシュだ。マンションや戸建て住宅の年間販売件数も統計を開始した中で過去最高となった。

急激な成長を遂げているベトナムだが課題もたくさんある。急成長の国の共通課題だが、環境問題がその一つである。皆さんはご存じだろうか、ベトナム・ホイアン市で那覇市と沖縄リサイクル運動市民の会が国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業でごみの減量化に取り組む普及啓発事業を展開していることを。

08年からの継続事業で、都市化が進むホイアン市のごみ増加の深刻な問題解決に取り組んでいる。長年、那覇市で取り組んできた活動を生かし「リデュース」減らす「リユース」再利用する「リサイクル」再資源化するの「3R」で始まる3Rの考え方を普及啓発する地道な作業だ。ホイアン市では着実に成果を上げている。

ホイアン市での実績が評価され先月、ホーチミン市が大阪市と取り組むごみの分別普及促進事業に沖縄から沖縄リサイクル運動市民の会とルーツ社が招かれた。

ビジネスだけではなく、地味だが急激な成長を遂げるベトナムの縁の下で力持ちとして協力する姿を見て、同じ同郷の沖縄人として大変うれしく、誇りに思った。

（ベトナムJES代表）

次回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。